

アコヤガイモニタリング調査結果（最終版）

（調査日：令和7年11月18日）

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 調査結果の概要

- ・貝肉の状態は、先月に比較して貝肉の充実がやや良くなり、栄養の蓄積状態を示す貝柱のグリコーゲン含量も健康度の指標となる3%を上回りました。
- ・一部の貝に感染からの回復中に形成されたと考えられる段が確認されましたが、外套膜の収縮や真珠層の褐変・脱灰などの症状のある個体は確認されませんでした。
- ・貝柱の赤変個体は、年間を通して確認されませんでした。
- ・現在、水温は平年値を約1℃上回り、前年同時期に比較して約1℃下回っています。今後水温が低下することから肉質が大きく悪化することはないと考えられますが、餌料プランクトン量が少なく、産卵後の衰弱の影響が出やすい状態が継続していますので、引続き貝の管理に御注意願います。
- ・今年度の調査は今回が最終となります。関係者の皆様、調査ご協力ありがとうございました。

2 調査結果一覧

（ ）内は昨年同月の値

漁場 ^{*1}	貝の種類 (R5産)	グリコーゲン含量 平均値 (%)	a 値 平均値	赤変個体 (個)	褐変個体 出現率
北部	日中交雑貝 ^{*2}	5.0 (2.9)	-0.3 (1.0)	0	0% (0)
中部①	日中交雑貝	3.3 (3.2)	0.7 (0.2)	0	0% (0)
中部②	日中交雑貝	2.4 (4.1)	-0.8 (-0.4)	0	0% (0)
南部	日中交雑貝	3.8 (3.0)	0.0 (1.1)	0	0% (0)
平均値		3.6 (3.3)	-0.1 (0.5)		

*1 漁場： 北部：三浦半島以北 中部：由良半島から三浦半島 南部：由良半島以南

*2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

3 調査方法

- ・5月から11月まで月1回（概ね第3週）、各漁場・種類毎に20個を調査。
- ・サンプルは、愛媛県漁業協同組合本所宇和島事業部が、調査日2日前をめぐりに各漁場で採取して持ち込んだアコヤガイ母貝（2年貝）。

4 調査項目および判断指標

- ・グリコーゲン含量 (%)：アコヤガイの栄養蓄積状態を示す指標で、数値が高いほど良好。
- ・a 値：閉殻筋（貝柱）の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。

「アコヤガイ飼育管理の手引」公開中

<https://www.pref.ehime.jp/uploaded/attachment/111520.pdf>